

【成長戦略課題候補】

スモモの低樹高・省力化樹形の確立 (R5~9)

果樹試験場

背景・目的

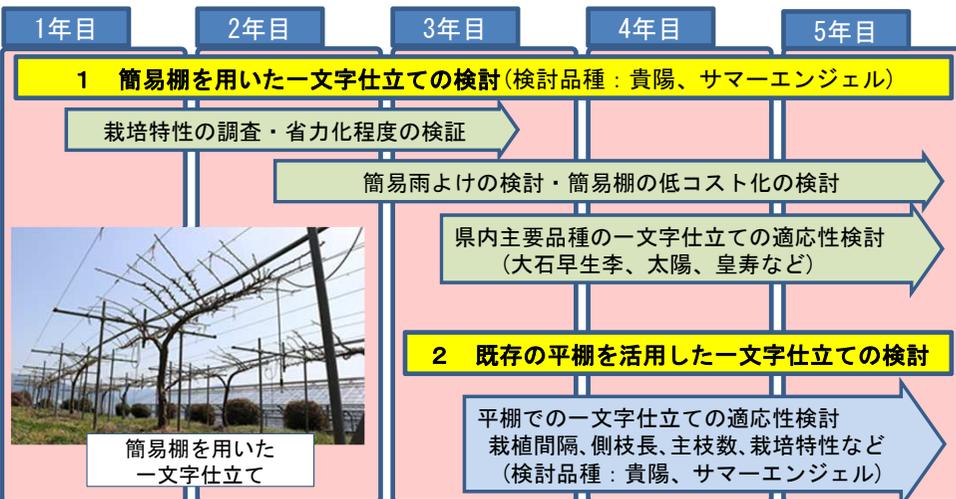
- 米国産スモモの輸入が解禁 → 県産スモモの競争力向上が必要
- 現在主流の樹高の高い開心自然形
 - ➡ 受粉、摘果、収穫作業等の労力負担
 - ➡ 作業の危険度の増加
- 現状の平棚栽培 → 導入コストが高く、新設が困難
- 既存樹形のせん定作業は熟練の技術が必要 → 新規就農者には困難

山梨県のスモモ生産量(山梨県農業生産額実績)
2022年(R2) 5,320t 栽培面積 864ha



簡易棚などを用いた低樹高で省力化が可能な安定生産技術を確立

研究内容



期待される成果

- ・省力的な仕立ての導入
果実管理作業時間等、20%削減
高所作業不要による農作業事故の減少
- ・簡易棚による導入時の資材コストの削減
平棚140万円/10a → 簡易棚100万円/10a (R4実績)
- ・せん定作業がマニュアル化
新規就農者の技術習得が容易
- ・簡易棚の導入・雨よけの活用 → 秀品率の20%向上

本県スモモ産地の維持・発展と競争力向上

